慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

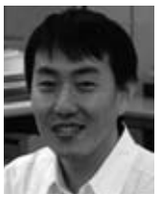
Title	事務局だより
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2010
Jtitle	Newsletter Vol.13, (2010. 9) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000013-0090

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究員紹介

尾島司郎



４月より特別研究助教として GCOE にお世話になっている尾島司郎です。専門は、言語の認知神経科学です。オーストラリアやイギリスに留学した後、愛知県の生理学研究所で脳機能計測を修得しました。首都大学東京で５年間、「脳科学と教育」プロジェクトに携わり、脳波と光トポグラフィーを用いて３００人以上の小学生を３年間追跡調査しました。野心的なプロジェクトでしたが、基礎研究と社会応用の両立に課題が残りました。慶應ではこの反省を胸に研究を進めていきたいと思っています。現在は、外国語の学習が母語能力に好影響を与える可能性を、認知神経科学的に探っています。この研究を発展させて、外国語と母語の能力を統合的に伸ばしていけるトレーニングを提案したいと思います。

八賀洋介

『行動変動性の強化プロセスの検討』

2010 年４月より人文グローバル COE の非常勤研究員になりました。私は行動変動性に関する実験的基礎研究に従事しています。生物個体の行動は、その結果を経験することで変容し、これは強化による淘汰と呼ばれています。強化による行動淘汰が機能するためには、まず多様な行動が生起すること、行動の変動性が必要です。その検討のために私が注目してきたのは、いわゆる正反応を強化することとの類比で、変動性が増せば強化を与えることで変動性を高めることが可能であるかでした。本来、強化自体は行動の“無駄”をなくし、“精錬”する、換言すれば不要で多様な行動の生存を許さない働きと考えられてきたので、これは強化に関する新しい視点でした。変動性を高めることは実際に可能であることを確認しましたが、今後この手続きはどこまで精緻に変動性を制御可能か、限界はどこにあるかを見定めることから、強化と行動変動性、反応形成について検討するつもりです。

山根千明

このたび哲学・文化人類学班の非常勤研究員を務めることになりました山根千明です。専門領域は西洋美術史で、とくに 1920 年代ドイツの造形芸術学校ヴァイマル・バウハウスにおける動画像メディア作品を研究対象にしています。

当時、芸術制作をめぐる状況は激しい変化を遂げつつありました。近代という新しい時代の幕開け、機械文明による生活形式の急変、第一次世界大戦のもたらした未曾有の体験、美術史が始まって以来芸術作品の拠り所であり続けた「ものがたり」の放棄と、それに伴って開始された抽象――すなわち、「生」にかかわるあらゆる側面におけるコペルニクス的転回の渦中で、人々は新たな価値体系を築くべく、さまざまな領域横断的実験に挑戦しました。その大きな結節点のひとつがバウハウスであったと言ってもけっして過言ではありません。

メディア革命の今日、いわば慶應におけるバウハウス的存在とも言える GCOE という恵まれた状況を活かし、新たな知見を得たいと思います。ご助言・ご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

事務局だより

活動予定

■ プラトン哲学をどう読むか「How to Read a Platonic Dialogue」

開催日：2010 年９月 28 日（火）
会　場：三田キャンパス東館６階 G-SEC Lab
講演者：Samuel Scolnicov 教授
（ヘブライ大学／元国際プラトン学会会長）

■ The Structure of Plato's Parmenides

開催日：2010 年 10 月１日（金）
会　場：三田キャンパス東館４階セミナー室
講演者：Samuel Scolnicov 教授
（ヘブライ大学／元国際プラトン学会会長）

■ 脳科学若手談話会（仮題）

開催日：2010 年 10 月９日（土）
会　場：東京大学駒場キャンパス（詳細未定）
講演者：四本裕子（脳と進化班）他

■ 日本パーソナリティ心理学会 第 19 回大会

開催日：2010 年 10 月 10 日 (日), 11 日 (月・祝)
会　場：慶應義塾大学 三田キャンパス
招待講演（一般公開）：
ブレント W. ロバーツ (イリノイ大学アーバナ･シャンペーン校)
渡辺茂 (慶應義塾大学・脳と進化班)
対　象：大学院生・研究者
※ **会場・時間等の詳細は大会 HP よりご確認ください。**
http://kotrec.keio.ac.jp/jspp19/index.html

編集後記　Newsletter 13 号では、５月から夏休みにかけての各班の活動報告を中心にお伝えします。さらに、新年度が始まり、４月から本プログラムに加わった新しいメンバー３人をご紹介します。プラトンから神経伝達物質まで、論理と感性の相互関係から浮かび上がる研究課題の多面性に改めて感動し、そこで暗黙に結びついていく様々な研究活動の拡張を示す、本拠点にふさわしい内容をお届けするように心がけてきました。ぜひ皆様、今後の新しい研究への刺激にしてください!　不慣れな編集でご迷惑をお掛けした点も多々あったかと思いますが、新年度のお忙しい中、原稿を執筆頂いた方々には、心から感謝をいたしております。（モハーチ・ゲルゲイ）

慶應義塾大学　論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2010. September. No. 13

発行日　2010 年 9 月 30 日
代表者　渡辺 茂
〒 108-0073　東京都港区三田 3-1-7　三田東宝ビル 7F・8F
TEL：03-5427-1156
FAX：03-5427-1209
keiocarls@info.keio.ac.jp
http://www.carls.keio.ac.jp/